

＜ 学校教育目標 ＞  
自ら学び  
心豊かで  
たくましい 稲田っ子

いなだっ子

笠間市立稲田小学校

学校だより NO.26  
令和6年12月24日(火)

「子どもを主語にした教育とは」

11月17日(日)に笠間市の人権教育講演会がありました。麴町中学校の校長先生であった工藤勇一先生を講師としてお招きし、上記のテーマで約2時間のご講演でした。麴町中学校は、①定期考査、宿題の廃止。②固定担任制の廃止。③服装、頭髪指導の廃止。④数学での一斉指導全廃。などで話題になった学校です。お話の中で印象深かった内容を紹介しします。

### 1 日本の学校が国連から指摘をされていること

- ① 過度な競争と圧力
- ② 画一的な教育と批判的思考力の欠如
- ③ 生徒への多様性への対応不足
- ④ 教師の負担へのサポート不足

### 2 主体性と当事者意識(子育て・教育に最も大切なもの)

日本の教育は、「自分の考えをもち自分で決定する力をつけるための視点での支援が足りない」とのことでした。これは日本と韓国に当てはまるそうです。欧米はこの逆のあり方なので、結果として自己肯定感や自己有用感に違いが出るとのことでした。また、いろいろなものを与え続けた結果、何より大切にしないといけない主体性を失い、当事者意識が低い状態になってしまったということでした。

子ども同士でトラブルが起こったとき、学校は解決を求められ、そのため先生が一生懸命話を聞いて解決方法を探ります。当事者は自ら考えずに、指導されたとおりに謝ったり応えたりすると思います。「ごめんね」「いいよ」のやり取りがその象徴です。欧米では先生は関与せず、自分たちで解決します。手をかければかけるほど、子どもは自立できなくなり、自分がうまくいかないことを誰かのせいにとしようとします。主体性を失い、自分も他人も嫌な気持ちになります。当事者意識を持たせ、トラブルの解決の仕方を自分で考えるようにしたいですね。温かく関わりながらどうやって手を放し、主体性を育てていくかが教育なのだろうと思います。

例えば、気持ちが安定しないA君と自分本位なB君がケンカになりました。B君の一方的な意見で外遊びの内容が「サッカー」から「鬼ごっこ」に変わり、サッカーをしたかったA君がB君を殴りました。この時、先生はどうかかわったらいいでしょう。おそらく、双方の話を聞き、互いのよくないところを指摘し、納得させた感じでお互いに謝って終わりにする感じではないでしょうか。それだと、先生が解決していて、子どもたちは、解決方法を学べません。子どもがどう解決するかを考えなくてはなりません。

工藤氏はこう話すそうです。「君たちが殴り合いを始めたら先生は殴り合いを止めることはできるけど、殴り合いが始まらないようにすることはできないよ」そこで、共通目的を見つけます。この場合、「平和」でしょうか。平和で合意するのはどちらも望むことでしょう。そして、合意のための対話スキルを身に付けることが重要になります。

### 3 主体性を養うために

将棋の藤井聡太さんは「勉強は学校の授業で集中するようにして、家では試験前であろうと、なるべく勉強をしないようにしていました。」とインタビューで答えています。また、高校3年生の最後、卒業を2か月後に控えたときに高校を辞めました。先生たちからは「在籍してれば卒業はできるから」と説得されたそうですが、将棋のために辞めました。「もったいないな」「もう少しだけがんばろう」という感覚が一般的かとは思いますが、思い切りよく辞めました。主体的決断(自己決定)ですね。

学校は大人の言うことを聞く従順で自主的な子供を育てようとしてきました。明治維新から150年間も教師側の立場から教育を考え、何を教えて(カリキュラム)どう教えるか(教え方)がいつも問われていました。これからは、学ぶ側の立場から教育を考え、何を学んで(カリキュラム)どう学ぶか(学び方)が問われる時代です。ただただ与えられたものをこなすだけではなく、自分で考えて何をどう学んでいくかを自己決定できるようにサポートする必要があります。なかなか難しい課題ではありますが、みんなで今までの意識を変えて、子供たちが自己決定できるようにサポートする必要があります。子供たちが「やらなきゃいけない理由」を自覚し、主体的に取り組んでいけるように学校と家庭が協力してやっていきましょう。

2024年も残すところあとわずかとなりました。皆様にとってどんな年だったでしょうか。元日の能登の大地震という心が痛むニュースで始まりました。大谷翔平選手や、パリオリンピック、パラリンピックでの日本選手の活躍など、明るいニュースもたくさんありました。そして、とにかく暑くて長い夏でした。流行語大賞が「ふてほど」今年の漢字には「金」が選ばれました。稲田小でもスナッグゴルフ部が全国大会に出場し、第3位という見事な成績を残しました。その他、数字に表せない子供たちの頑張りもたくさんありました。

ここまで子供たちが健康で学校生活を送り、無事に年の瀬を迎えることができたこと、保護者の皆様に感謝いたします。学校教育へのご理解ご協力ありがとうございました。どうぞよいお年をお迎えください。

稲田小学校長 高野 裕一